

平成26年度 部誌・OB&OG 会報

— 現役と OB&OG の情報誌（架け橋） —



SHORINJIKEMPO

少林寺拳法

防衛大学校少林寺拳法部

HP アドレス : <http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

目次

頁

部誌

1	部長挨拶	2
2	監督挨拶	3
3	特別寄稿	4
3	学生寄稿	5
4	平成26年度活動成果	10
5	平成26年度大会成績	11
6	平成27年度部員名簿	14
7	平成27年度年間活動計画	18
8	平成27年度顧問団	19

奥平会報

1	会長挨拶	21
2	平成26年度奥平会活動成果報告	25
3	平成27年度奥平会活動計画	27
4	平成27年度奥平会予算計画	30
5	奥平会会則	32
6	奥平会員名簿	36



ご挨拶

部長 高橋 信明

合 掌

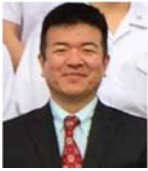
21 世紀になり、ますます世相が複雑になり、また昨今におきましては安定性の度合いが低くなっているように見受けられますが、防衛大学校少林寺拳法部OB・OG諸兄弟におかれましては日々勤務に精励され、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。第60期政権を中心とする防衛大学校少林寺拳法部現役学生諸君は勉学に、校友会活動に、そして学生舎生活にと日々充実した防大生活を送っていることと思います。

さて平成26年度を振り返ってみますと、大変に惜しいものがありました。昨年11月30日に日本武道館にて行われました第48回少林寺拳法全日本学生大会におきましての上位得点校の合計点を示しますと、東京大学が267点（合計技術度160点）、早稲田大学が266点（同160点）、防衛大学校が266点（同159点）となりました。従いまして、東京大学が1位、早稲田大学が2位、防衛大学校が3位になりました。1位との差がわずか1点、そして合計技術点で早稲田に1点の遅れをとり、悔しくも第3位となった訳です。内容的にはどこが勝ってもおかしくないとも言えますし、あるいは防大には何か一つ不足していたとも言えます。分析し、反省し、対策を練り、次に繋げて行って欲しいと思います。

平成27年6月始め現在での部員数は、4学年（60期）が12名、3学年（61期）が13名、2学年（62期）が12名、そして新入部員1学年（63期）が20名の総員57名で、昨年よりは若干減りましたが、概ね安定した部員数と言うことができます。特徴的なのは、2年生12名のうち3名が、そして1年生20名のうち4名が女子であるということです。校友会の運動部等の数が40程度であることを考慮しますと、比率としましてはかなり多くの女子が少林寺拳法部に入部したと言えます。このままの状態で行けば、遠くないうちに防衛大学校の女子団体演武をお目にかけることが出来ると思料する次第です。

間もなく前期が終了し、夏期定期訓練の後には、夏合宿が待っています（8月1日～3日）。現在、神田・頼富両先生、高取（37期）監督、松岡（50期）副監督始め多くの顧問・先輩方の指導の下、60期政権（主将：立花、副将：岩井）を中心としまして、日々厳しい稽古に励んでおります。OB・OG諸兄弟におかれましては、よりいっそうのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結 手



監督挨拶

監督 高取 哲郎(#44)

合 掌

防衛大学校少林寺拳法部OB・OGの皆様におかれましては、平素より防大学生拳士に対し、温かいご支援、ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。

この度、45期堤允良君の後任として監督の任を拝命いたしました37期の高取と申します。私は、かつて平成15年から17年の間、顧問、監督を務めさせていただき、今回2度目の就任となります。

未熟者ではありますが、監督の立場としての「開祖、そして師家に代わり拳士を指導する役割」と、その使命である「開祖の志を受け継ぎ、防大少林寺拳法部で人づくりによる理想郷建設という幸福運動に挺身すること」を自覚し、少林寺拳法の理念を行動原理として、自らの実践によって学生拳士に伝えていくことを、監督就任の機にあたり、改めてお誓い申し上げますとともに、防大少林寺拳法部発展のため、奥平会はもとより、少林寺拳法連盟本部、神奈川県連盟、関東学生OB会連合会及び横須賀三浦ブロックそれぞれにおける諸行事、関連事務に積極的に取り組み、繋がり強化させるよう誠心誠意、尽力する所存です。よろしくお願い申し上げます。

さて、防大における校友会とは、フォロアーズシップとリーダーシップの涵養及び体力の練成に大きな役割を果たす場として、学生の自主自律の精神を尊重したあくまで学生による主体的な活動の場であることは、言うまでもありません。それは例えるなら荒波の中を航海する一艘の舟に乗り合わせた運命共同体ではなかろうかと思えます。

すなわち学生拳士は、自ら定めた目的地（目標）に到達するために、現在地（自己の練度、能力）を正しく認識し、原点に立ち返って、あらゆる困難に立ち向かうチャレンジ精神と様々な甘い誘惑を断ち切る覚悟を持って、新たな針路（練習計画）と速力（練習量）を決断し、一致団結して、一日一日成長を実感しながら進まねばならないと認識しているからです。

航海の途中で諦めず最後まで舵を握り続ける不撓不屈の精神と、限られた学生期間の中で計画通りに進まない時には、現状を再分析して針路と速力を見直すことのできる柔軟性ある対応能力を学生拳士は兼ね備えることが肝要です。

目標を堅持して達成するのだという強い信念と、これに基づく積極的な行動こそが、結果を左右させる要素であると私は確信しています。

現在、学生拳士は60期主将立花祐太君のリーダーシップのもと、日々練習に励んでおります。女子部員も増えて参りました。学生拳士達には、先輩方が残された偉大な功績に臆することなく、ひたすら目標に突き進んでもらいたいと願っております。

OB・OGの皆様におかれましては、学生大会や防大の近くにお越しの際、是非ともお立ち寄りいただき、学生拳士に声をかけていただきたく存じます。また、今多くの先輩が少林寺拳法の修行に復帰されております。今後、防大少林寺拳法部が益々盛況となるために、高橋部長、部内外の顧問の皆様と連携を密にし、学生拳士と共に精進して参りますので、よりいっそうのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結 手



さよならの言葉 ～つなぐ襷と深まる絆～

顧問 濱田 秀(#27)

合 掌

私ごとですがこの度、12月に定年を迎えるため、それより少し前に防大を去ることになりました。思い起こせば自衛官としての出発点もこの地、防衛大学校だったのであり、その意味では自衛官としての最終段階で、自らの原点に帰ることができたことに対し大変うれしく思っている次第であります。また、日々校友会の学生を含む若人達に元気ももらい若々しく日々を送ることができたことに誇りと満足感を感じているところでもあります。

終わりが見えてくると、すべてがいとおしく見えるものであります。そうだからこそ今を大事に生きることが大切なのでしょう。防大を去る時間が近づいている今、部活に勤しんでいる学生を見ながら、防大で7年7ヶ月の間、監督・OB顧問として学生とともに過ごした日々をふりかえり、自分は部に対し最善を尽くせたのかを自問自答しているところでもあります。また、最近遠い昔、特に1学年として防大少林寺拳法部に入部した頃のことも妙に思い出したりするようになりました。

入部したての頃は道場もなく、それでも部員が130名ほどはおり、芝生場や陸上競技場等で泥まみれで練習をしたものです。自ら進んで入部したにもかかわらず、昼の14:30を過ぎると15:40の練習開始時刻が気になり、これから迎えるであろう厳しい練習を思い、日々身震いしたものでしたものです。学生舎で一番厳しい2年生が部では優しく、サイレントプレッシャーたる3年生は、部活でも不気味に怖い。でも一番厳格だったのは4年生であり、たまに4年生に褒められたときには、天にも昇るような気持ちで、1日の残りが相当明るくなったことを思い出しました。

泥まみれで実施する日々の練習は15:40から18:45まで行われ、泥まみれであるがゆえに入浴を省略はできず、15分が入浴と食事を済ませ、15分で清掃・点検、19:20の点呼をこなしていた部活中心の日々。部隊勤務ではまったく忘れておりましたが、防大で勤務するようになって再び記憶としてよみがえってまいりました。

そのような過去をふりかえる一方で、OB顧問として学生を見る眼はまた違った見方になります。人造りの行である少林寺拳法はまた、自衛隊の幹部候補生となる人材を育成する防大の教育方針とも合致しているのだと。私は53期政権から63期生入部までを見守っていたわけではありますが少林寺拳法という拳技を通じ、下級生が上級生に育てられ成長し、またその下級生が上級生となって後輩を育てる、このように脈々と続く流れのなかで、厳しい中にも切磋琢磨・お互いを学生達は高めあう。少林寺拳法部の襷をつなぐ、絆を深めるということの尊さを今さらながらに実感しています。少林寺拳法部の年度の最大の目標である全国学生大会優勝が重要であるのはいうまでもないが、部員達が4年間かけて人間として成長ゆく様子を見守ることができたのも素晴らしいことだったのだと思います。

現在60名近くいる学生の中でリーダーシップに目覚め、日々苦勞している4年生、やがて少林寺拳法部の覇者となるべく、来たる団体演武を乗り切ろうと日々余念がない3年生、そして、やる気満々で日々時間外も含め、練習に励んでいる1、2年生達が今を生きております。なによりも明るくポジティブな学生達の姿を見ておりますと引き続き明るく、強く、逞しい部の将来が見えるような気がいたします。つなぐ襷と深まる絆。私も安心して防大を去ることが出来ます。少林寺拳法部の今後のご発展を祈念いたします。また、高橋部長をはじめ顧問団の皆様、そして外から応援して下さる奥平会員の皆様、今後とも引き続き少林寺拳法部をどうかよろしく願いたします。

結 手



「主将としての決意」

60期主将 立花 祐太

合 掌

私たち60期政権が発足してから早いことにもう半年以上が経ちました。これまで部員の成長を第一に考え、これまで様々な積極的取り組みをしてきました。そこまで大きな変化を生んでいるかはわかりませんがこれから残り半年間も色々と試行錯誤を続け必ずやりきってみせる意気込みです。

まず防衛大学校少林寺拳法部の確固たる目標は、全日本学生大会の団体演武で最優秀をとること、つまり日本で一番になることです。この栄光を自らの世代でつかみ取ることこそ、我々が受け継いできた防衛大学校少林寺拳法部の誇りであると考えます。

しかし、現在防衛大学校少林寺拳法部はこの団体演武での最優秀を、57期を最後に3大会続けてとれていません。日頃から同じ釜で飯を食い、同じ時間に同じ場所で寝起きをして、将来進む道も全員同じ。常に協調性を大事にして同期と切磋琢磨し生活している防衛大学校学生はどんなに他校と実力差があろうともこの団体演武での最優秀だけは絶対に譲ってはいけない伝統なのです。

今年こそ、3年間の雪辱を果たすため60期政権は『リベンジ』という年間目標を掲げ、全員が高い意識を持って日々の修練に臨んでいます。

日本一の部活というのは単なるうまさだけではなく、全員の気力、規律、絆がどれをとっても充実しており、全員が目標、目的をしっかり確立しているものだと考えます。またその充実した気力、規律、絆というものは、将来の幹部自衛官を育成するこの防衛大学校での生活をも充実したものにさせてくれると思います。

61期以下に、絶対に最高の気分を味わってもらうためにも、私たち60期政権が涙と笑顔いっぱい引退するために、60期政権一同は最高の厳しさと同時に最高の愛を持って残り半年間指導に臨んでいきます。

最後になりますが、部長、監督、顧問、OBのすべての方々へ。これからも政権運営をする上でたくさんのごことで悩んだり、戸惑うことがあるかもしれません。その時はどうか温かいご支援、ご鞭撻をいただければ幸いです。それでは今後とも防衛大学校少林寺拳法部をよろしく願います。

結 手



「政権運営に携わって」

60期副将 岩井 雄馬

合 掌

政権運営の大変さを1学年の頃に実感することが出来たら、おそらく校友会に行くことが嫌になったでしょう。今まで57期から59期の方々に支えられ、選手として集中して活動していた日々の幸せ、ありがたさを日々噛みしめています。

今までの校友会生活を鑑みてみると、何も知らないままに漠然と入部した防衛大学校少林寺拳法部で、副将という責任の重い任に就かせていただくとは考えてもいませんでした。

自身の校友会での振る舞いを一言で表すなら『不羈自由』、この4文字熟語が適当だったでしょう。ただ単に自分を鍛え上げる事のみを考え、あまり協調性をもって、献身的に部の活動をしていたとは考え難いです。

しかしながら副将という立場を与えられ、政権になると自然と考え方も変わりました。

「男は黙ってやせ我慢」、「利己的になるな、全体の奉仕者になれ」これら2つの言葉は1学年の時の部屋長に叩き込まれたものです。最近政権になってからこの言葉をよく思い出す様になりました。

そして間もなく政権交代まで半年となります。下級生には自分がしてきた様に校友会で選手としてだけに集中して、充実した日々を送って貰えるように私の尽力を注ぐ所存です。一方自身の選手としても残りわずかです。鍛練を積み、悔いの残らぬように日々の練習に励んでいきます。

結 手



「人として大事なこと」

60期道場長 中嶋 律也

合 掌

私は少林寺拳法を通してよく実感することがあります。それは、少林寺拳法は常に自己の人間性と他者の人間性を大事にする、人づくりの行であるということです。

かつて私は他の武道を学んでいた時期がありましたが、それを通じて思い知ったのは、「強ければ何をしても許される」という、極めて自己中心的・独善的な、醜い人間性の表れでした。戦うことに限定して言えば、確かに強いことは重要ですし、それゆえに勝負にこだわるのは当然のことと思います。

しかしながら「殺人術」ならいざ知らず、人としての心身の練磨と他者との関係性とりわけ礼儀作法を修めることに主眼をおいた武道ならば、いたずらに相手を殺傷しその優劣を競うのは正しい在り方とは言えません。ましては「自他共楽」などといかにもそれらしい文句を掲げているならばなおさらのことです。

一方で少林寺拳法は、常に礼に始まり、礼に終わります。段位にとらわれることなく、一方が偉そうぶって相対する一方が下手に出て頭を垂れるというということではなく、互いに対等な立ち位置で合掌礼を行います。

有段者は日々の修行によって積み重ねた知識と経験をもとに技術と思想を教え指導を行い、個々の修練についても互いに技を掛け合う中で互いの痛みを知り、その中でも技術としての洗練を図るとともに互いの人格を尊重するようになります。そこには互いに信頼し尊重し合っているからこそ築ける関係性があるのです。

人という存在は、それ単体では生きていけません。だからこそ人と人が関わり合いをもち、互いに協力しながら生活を営むのです。我も人ならば彼も人。人間である以上、それぞれに思いや意志といった、人間性をもっています。

そのうえで互いに関わりを密にして協和を生み出すために必要なのは、自己という意思を持ちながらも互いの人間性を認め、そして尊重し合う姿勢と振る舞いだと思います。人と人の関係は日々のコミュニケーションから。そのきっかけとしても、私は常に礼・挨拶を大事にしていきたいと思います。

結 手



「61期の団結」

61期 渡邊 健太

合 掌

私が防衛大学校の小林寺拳法部に入ろうと思ったのは、昔から少林寺拳法を習っていたからで、慣れていることならやりやすいと思い、校友会の見学もまともにしないまま入ってしまいました。しかし、実際に練習が始まると、ランニングや拳立といった私が昔に道院で通っていたころには全く経験しなかったメニューをして本当に心が折れそうになりました。

一学年のときは、校友会と学生舎に追われて一日の山が校友会と思えるほど大変でした。なんでこの校友会に入ってしまったのだろうと何度も考えましたが、続けることができたのは同じことを経験していた同期がいたからです。きついことを一緒に乗り越えてきた同期は本当に特別に存在だと思います。

われわれ61期の最後の目標はやはり団体演武において全日本学生大会で最優秀をとることです。そのために、各個人では体を鍛えることや技を磨くことはできますが、その前に同期と雰囲気よく修練することが大事になってくると思います。

11月の全日本学生大会で最優秀をとれるよう厳しく楽しく練習していこうと思うので上級生の方々、いつも支えてくださるOB、顧問、監督の方々よろしく申し上げます。

結 手



「少林寺拳法と私」

62期 柴田 千里

合 掌

私が防衛大学校少林寺拳法部に入部してから一年が過ぎ、一学年という激動の生活を終え、校友会により集中できる二学年となりました。体力のない私は入部当初から練習前のランニングが嫌で嫌で、校友会に行くこと自体が憂鬱でした。全日本一位の団体演武に憧れ、厳しい部だと知りながら入部を決めました。やはり違う校友会にすれば良かったと考えたことは何度もあります。

こんな私が少林寺拳法部を続けていられるのは、辛い練習も一緒に乗り越えてくれる同期や、温かく指導してくださる政権・上級生の方々がいるからです。様々な理由で一緒に練習できない人もいますが、そんな人も含め、今まで防衛大学校少林寺拳法部に関わった全ての人のおかげで今の私がいて、これからも頑張ろうと思えています。

少しでもうまくなりたい、強くなりたい、そんな思いで62期は日々練習に取り組んでいます。まだまだ未熟なことの多い私たちですが、仲の良い雰囲気大切に精進していきます。

結 手

平成26年度活動成果

期間	行事	場所	備考
5月4日	第51回関東学生大会	日本武道館	団体演武4位 男子茶帯5位
5月12日	新入生歓迎行事	ソレイユの丘	新入部員16名入部
5月24日	早稲田大学・慶応義塾大学 との合同練習 (早慶防)	防衛大学校	早稲田・慶応・慶応 理工・青山学院・昭 和・日本女体大・上 智・明治・一橋・津 田塾計183名
6月8日	杉本杯	法政大学	
6月24日	防衛大学校少林寺拳法部 創立50周年式典	ホテルグランド ヒル市ヶ谷	
8月18～21日	夏合宿	新潟県魚沼郡	
8月26～31日	本山合宿	香川県多度津町	
11月8、9日	第63回開校記念祭	防衛大学校	
11月30日	第48回全日本学生大会	日本武道館	団体演武3位
12月	政権交代	防衛大学校	
1月7～10日	寒稽古	防衛大学校	
1月24日	第40回全自衛隊大会	市ヶ谷	団体演武1位
2月1日	新春の集い	セントラルホテル	
2月14日	奥平杯・OB総会・納会	防衛大学校	
3月23～25日	春合宿	防衛大学校	

※ 関東大会、全日本学生大会、全自衛隊大会の細部成績は次頁以降を参照

平成26年度大会成績

第51回関東学生大会（平成26年5月4日：日本武道館）

種目	成績	出場拳士
団体の部	4位	60期 橋本 大季、山下 亜院、立花 祐太、矢花 純一、山本 健一郎、東原 和毅 岩井 雄馬、藤代 司
三人掛けの部	本選出場	59期 森 拓海、山田 達也、結城 翔伍
男子二段以上の部	本選出場	59期 井口 賢、小林 岳海
	本選出場	61期 鳴海 洸成、信太 啓輔
男女二段以上の部	本選出場	59期 戸本 宗一郎、中山 真利奈
男子茶帯の部	5位	61期 武次 将吾、工藤 将人
	本選出場	61期 藤澤 宏司朗、ヴァン ニュ ハイ

第48回全日本学生大会（平成26年11月30日：日本武道館）

種目	成績	出場拳士
団体の部	3位	60期 矢花 純一、立花 祐太、橋本 大季 金沢 克則、須釜 一樹、岩井 雄馬 61期 鳴海 洸成、信太 啓輔
三人掛けの部	本選出場	59期 山田 達也、小林 岳海、井口 賢
男子二段以上の部	本選出場	59期 戸本 宗一郎、森 拓海
男子茶帯の部	本選出場	61期 工藤 将人、加藤 晃輔
男女白緑帯の部	本選出場	62期 清田 将太郎、水野 宗子
単独段外の部	本選出場	61期 藤澤 宏司朗

第40回全自衛隊大会（平成27年1月24日：市ヶ谷）

種目	成績	出場拳士
団体演武学生の部	1位	61期 大内 哲也、武次 将吾、鳴海 洗成 渡邊 健太、相川 大海、加藤 晃輔
	2位	61期 天野 極、工藤 将人、庄谷 隼介 藤澤 宏司朗、渡邊 大輔、信太 啓輔 平 行弘、土田 元輝
学生有段の部	1位	60期 橋本 大季、矢花 純一
	2位	61期 鳴海 洗成、信太 啓輔
	3位	60期 立花 祐太、岡本 直也
学生1～3級の部	1位	62期 清田 将太郎、諸岡 拓
学生男女の部	1位	62期 柴田 千里、平野 拓也
	2位	62期 萩原 陽子、水野 宗子
学生単独有段の部	1位	61期 渡辺 大輔
	2位	61期 渡邊 健太
	3位	61期 相川 大海



【 第 48 回全日本学生大会 平成 26 年 11 月 30 日 日本武道館 】



【 納会における現役・顧問団と奥平会員の面々 平成 27 年 2 月 14 日 】

平成27年度部員名簿

(平成27年6月1日現在)

期別	役職	氏名	小隊	専攻	要員
60	主将	タチバナ ユウタ 立花 祐太	243	航空宇宙	空
	副将 渉外 庶務 1年係副	イワイ ユウマ 岩井 雄馬	312	応用物理	陸
	道場長 3年係補	ナカジマ リツヤ 中嶋 律也	413	人間文化	陸
	統制長 3年係正	ヤバナ ジュンイチ 矢花 純一	321	応用物理	陸
	主務 2年係副	スガマ カズキ 須釜 一樹	441	機械システム	陸
	安全 1年係補	ナカヤマ ヨウイチロウ 中山 孔一朗	223	応用科学	陸
	会計 2年係補	イソザキ ユウヤ 磯崎 雄哉	313	建設環境	海
	安全 2年係正	ハシモト ヒロキ 橋本 大季	313	建設環境	陸
	本山 3年係副	オカモト ナオヤ 岡本 直也	343	応用物理	陸
	写真係 1年係補	タケダ カズキ 武田 一希	412	人間文化	海
	庶務 1年係正	カナザワ ヨシノリ 金沢 克則	431	人間文化	陸
	HP係 3年係補	マツモト コウヘイ 松本 光平	432	情報工学	陸
61		タケツグ ショウゴ 武次 将吾	122	機械工学	空
		アイカワ ヒロウミ 相川 大海	122	人間文化	海
		ワタナベ ダイスケ 渡辺 大輔	143	機械工学	陸

61		ショウヤ 庄谷 ジュンスケ 隼介	221	応用科学	陸
		ワタナベ 渡邊 ケンタ 健太	243	応用物理	陸
		シントウ 信太 ケイスケ 啓輔	243	機械システム	海
		タイラ 平 ユキヒロ 行弘	332	公共政策	海
		フジサワ 藤澤 コウジロウ 宏司朗	342	公共政策	陸
		アマノ 天野 キョミ 極	343	航空宇宙	空
		ヤマウチ 山内 タクヤ 拓弥	421	国際関係	陸
		カトウ 加藤 ユウスケ 晃輔	423	電気電子	陸
		クドウ 工藤 マサト 将人	431	電気電子	空
		ナルミ 鳴海 コウセイ 洸成	441	電気電子	陸
62		ヤマサキ 山崎 アツオ 敦夫	122	地球海洋	陸
		キヨタ 清田 ショウタロウ 将太郎	122	応用物理	空
		シバタ 柴田 チサト 千里	132	地球海洋	海
		ハギハラ 萩原 ヨウコ 陽子	133	応用科学	陸
		ナガノ 長野 ソウイチロウ 宗一郎	142	地球海洋	陸
		カミオカ 上岡 アユム 歩夢	211	理工学	共通
		ヒラノ 平野 タクヤ 拓也	223	建設環境	陸
		スギタニ 杉谷 ヤスキ 康樹	232	理工学	共通

62		クロダ 昌宏 黒田 昌宏	233	航空宇宙	海
		ミズノ 宗子 水野 宗子	421	国際関係	陸
		イトウ 大聖 井藤 大聖	423	電気電子	陸
		ツチダ 元輝 土田 元輝	442	国際関係	陸
63		ミヤケ 大介 三宅 大介	121	理工学	共通
		ヤマグチ 啓 山口 啓	141	理工学	共通
		クメ 大樹 久米 大樹	142	理工学	共通
		クボタ 佳奈 久保田 佳奈	241	人文社会学	共通
		ワコ 丈眞 輪湖 丈眞	241	人文社会学	共通
		コヤマ 将宣 小山 将宣	242	人文社会学	共通
		ナミキ 亮太 並木 亮太	243	人文社会学	共通
		オカモト 聖也 岡本 聖也	311	理工学	共通
		ダンノウエ 航希 檀之上 航希	313	理工学	共通
		ヤマシタ 卓己 山下 卓己	331	理工学	共通
		オオマエ 秀人 大前 秀人	343	人文社会学	共通
		ハセザキ 凌 羽瀬崎 凌	343	人文社会学	共通
		オカザキ 帆南 岡崎 帆南	343	人文社会学	共通
	イノウエ 真奈美 井上 真奈美	411	理工学	共通	

63		トジマ 戸島 淳 ^{ジュン}	422	理工学	共通
		サトウ 佐藤 智洋 ^{トモヒロ}	423	理工学	共通
		キタグチ 北口 和希 ^{カズキ}	431	人文社会学	共通
		アキバ 秋葉 光一郎 ^{コウイチロウ}	431	人文社会学	共通
		ヤマハラ 山原 和 ^{ナゴミ}	433	人文社会学	共通
		ウノ 宇野 友貴 ^{ユウキ}	441	人文社会学	共通

平成27年度年間活動計画(一部実績含む。)

期間	行事	場所	備考
5月4日	第52回関東学生大会	日本武道館	団体演武6位
5月9日	新入生歓迎会	横浜海の公園	新入部員20名入部
5月16日	早稲田大学・慶應義塾大学との合同練習(早慶防)	防衛大学校	早稲田・慶応・東海・慶応理工・青山学院・明治・明治学院・日本体育女子大・上智・立教・フェリス・法政計 153名
6月27、28日	関東学生連盟新入生合宿	国立オリンピック記念青少年総合センター	
8月1～3日	夏合宿	防衛大学校	
8月22日	第41回全自衛隊大会	千歳基地	
8月25～30日	本山合宿	香川県多度津町	
9月(時期未定)	杉本杯	法政大学	
11月1日	第49回全日本学生大会	日本武道館	
11月14、15日	第64回開校記念祭(披露演武)	防衛大学校	
11月下旬(時期未定)	政権交代	防衛大学校	
1月(時期未定)	寒稽古	防衛大学校	
2月6日	奥平杯・OB総会・納会	防衛大学校	
3月下旬	春合宿	防衛大学校	

※なお、各月一回を基準に神田・頼富先生の「先生日」(旧：師範日)を予定

平成27年度顧問団

部長 教授 高橋信明

先生 (旧師範) 神田先生 (正範士7段) 頼富先生 (准範士6段)

監督 2海佐 高取 哲郎

副監督 1陸尉 松岡 晋

顧問団 訓練部長 湯浅 秀樹 (海将補)

教授 山川 純次、長合 友造 (1陸佐)、立林 剛 (1陸佐)、葉玉 寿弥、横山 多津江
山近 久美子 准教授 濱田 秀 (2陸佐)、有賀 敦、西田 謙、齋藤 文一、和田 篤
訓練部 永田 忠義 (1陸尉) 研究科 関戸 貫生 (2等陸尉)、北村 修 (2等陸尉)



【平成27年度顧問団の面々】

部外顧問 出口元空将補 (#24 空 : 元主将・元全自支部長) 佐藤元空将補 (#24 空 : 元監督)
坂本元空将補 (#25 空 : 元監督) 相良元 1海佐 (#26 海 : 元監督)
米山元 1陸佐 (#27 陸 : 元監督・前全自支部長) 吉武 1陸佐 (#31 陸 : 元主将)
山口 2空佐 (#32 空 : 現全自支部長)



【出口先輩 : 目黒】



【佐藤先輩 : 武専東京センター】



【坂本先輩】



【相良先輩 : 八戸】



【米山先輩 : 目黒】



【吉武先輩 : 市ヶ谷】



【山口先輩 : 府中】

※ 部外顧問の方には、月一回の先生日や、防大近隣に来られた時にご指導をいただきます。

奥平会報





会長挨拶

奥平会会長 佐藤 秀幸

合 掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃から奥平会にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

昨今、東シナ海、南シナ海をめぐる東アジアにおける各国間の対立、また憲法改正を含めた集団的自衛権をめぐる議論等、防衛問題が大きく取り上げられるとともに、災害の多発に伴う自衛隊の活動に対する国民の期待も益々大きくなってきています。

こうした状況下にあつて、自衛官の役割は一層重要なものとなつてきており、多くの現役会員の方が重要なポジションを占めるに至つております。こうした現役会員の姿は、学生の大きな励みとなるとともに、「人づくりによる国づくり」という少林寺拳法の教えが活かされ結実された結果ではないかと考えております。また、これまで以上にOBとしても支援もしていかなければならないと認識している次第です。

さて、防衛大学校少林寺拳法部は、創立50周年という大きな節目を迎えており、今後の更なる充実を図って行く時期にあります。学生については、ここ数年、女性を含め新入部員数も安定しており、喜ばしい状況にあるとともに、4年生を中心として、特に全日本学生大会における団体演武優勝等を目指して日夜頑張つております。

一方で、OBについても現役復帰あるいは高段位取得者が増えてきており、平成27年度からは一部、監督等による指導体制が変わり、技術についても学生がOBから直接指導を受ける機会が増えてきています。

奥平会としては、今後とも引き続き、会員相互間の親睦を図ることも然ることながら、現役に対する物心両面にわたる種々支援を行っていきたいと考えております。会員の皆様にあつても、是非時間を作つていただき、合宿あるいは日頃の練習等の場に顔を出して学生を励ます等、ご協力をいただければ幸いと存じます。

最後に、会員の皆様のご健勝を祈念するとともに、今後の奥平会活動に対するご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

結 手

平成26年度奥平会活動概要

現役部員に対する支援

日常における学生に対する指導をおこなうとともに、夏季合宿、関東・全日本学生大会等への支援を実施致しました。細部は別紙第1「平成26年度奥平会活動成果報告」のとおりです。

特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、OB・OGの方々が、ご多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。27年度につきましても、できる限り大会等の予定を御連絡いたしますので、応援・ご支援のほどよろしく申し上げます。

平成27年度奥平会活動予定

1 平成27年度奥平会活動内容

別紙第2「平成27年度奥平会活動計画」をご参照ください。

2 平成27年度奥平会予算

別紙第3「平成27年度奥平会予算計画」をご参照ください。

3 平成27年度奥平会本部

役職	期別	氏名	連絡先
会長	24F	佐藤秀幸	(退職)
顧問	17F	石渡幹生	(退職)
顧問	17A	鈴木陽	(退職)
副会長(市ヶ谷等)	25F	坂本卓巳	(退職)
副会長	27A	濱田秀	防大戦略教育室准教授 8-40-3853
総括幹事	29A	立林剛	防大安危センター教授 8-40-3825
庶務・広報	50A	松岡晋	防大113小隊指導官 8-40-2611
会計監査	24A	稲葉貞志	(退職)
会計	27A	長合友造	防大戦略教育室教授 8-40-3809

部誌の電子化の状況について

部誌のコスト削減、作成・配布作業の軽減、OB配布率向上のため、昨年度の総会で「部誌の電子化」を実施いたしました。一昨年度の106,281円に比し、昨年度は63,293円で42,988円のコスト削減となりました。メール化開始前の23年度の199,925円に比し、136,632円のコスト削減となります。なお25年度は諸般の事情により、作成が遅れてしまい、時期を逸したため、電子版のみとなりました。このことから部誌関連の経費は0円となっております。

期連絡網について

1 趣 旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理します。特に近年、退職者が多数おられて、会員の掌握が難しくなりつつある現状を踏まえ、他校友会会員の扱い等も参考にしつつ、掌握に努めます。

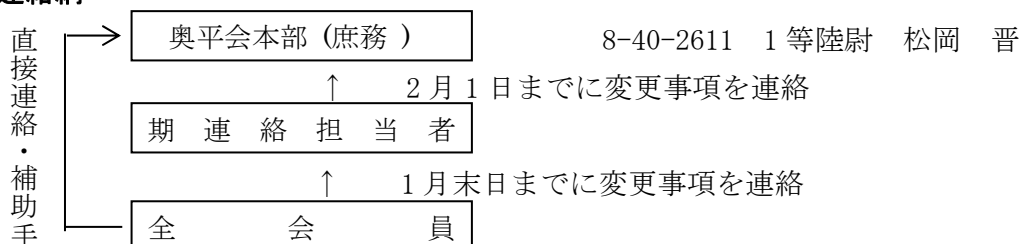
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおきます。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年1月末日までに同期生の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げます（直接防衛大学校庶務に連絡することも可能）。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年2月1日までに奥平会本部（防大庶務に連絡する。期担当者の変更（交代・転出）についても防大庶務に連絡します）。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとします。この際同窓会本部との連携に留意します。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を期毎指名し、申し送るものとします（再任を妨げるものではありません）。

4 期連絡網



5 期連絡担当者（27.4.1現在）

10	調整中		31A	吉竹 辰明	朝霞	52N	上田 佳裕	鹿屋												
11A	勝野 建朗	退職	32A	福重 毅尚	長野	53A	磯畑 良大	山口												
12A	調整中	退職	33N	町島 敏幸	徳島	54A	坂口 雄幸	大久保												
13A	調整中	退職	34A	松永 康則	市ヶ谷	55A	尾上 真一	習志野												
14A	清水 重周	退職	35A	戒田 重雄	市ヶ谷	56A	佐藤 康平	滝川												
15N	山下 啓介	退職	36A	藤岡 史生	大村	57F	盛満 昭彦	静浜												
16A	富本 啓一	退職	37N	高取 哲郎	目黒	58N	仲矢 光希	江田島												
17A	中尾 吉孝	退職	38A	奇藤 浩	荏川原	59A	戸本宗一郎	久留米												
18F	笠原 久	退職	39A	中村公多朗	市ヶ谷															
19A	屋久 俊郎	退職	40A	上野 洋介	市ヶ谷															
20A	小林 実	退職	41A	後藤 仁志	習志野															
21A	湖崎 隆	退職	42A	古賀 信之	市ヶ谷															
22A	松村 利宏	退職	43A	廣瀬 繁	市ヶ谷															
23A	日高 政広	退職	44A	渡邊 俊明	仙台															
24F	中館 利光	退職	45A	堤 允良	舞鶴															
25N	内山 哲也	退職	46A	菊池 裕紀	大村															
26F	池島 暢也	十条	47A	矢野 健一	富士															
27A	濱田 秀	防大	48A	对比地貴之	習志野															
28A	湯浅 悟郎	青森	49N	房野 賢一	横須賀															
29A	甲斐 正人	下志津	50N	鳥居 悠希	大湊															
30A	福田 洋司	伊丹	51A	加藤 儼	青森															

平成26年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 各種活動に金銭的支援及び防大所属会員等による人的支援を実施致しました。
- (2) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣会員からの激励、金銭的な支援を実施致しました。
- (3) 所要に応じ、OBによる技術指導を実施致しました。
- (4) 予算に則り、顧問の必要経費の支援を致しました。

2 神奈川県連活動等

- (1) 月例の会議に参加（濱田）
 - (2) 賀詞交換会に参加（濱田）
- ※神奈川県大会については7月に行われたため、不参加

3 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（月1回；松岡）
- (2) ブロック合同練習参加（堤・松岡）
- (3) ブロック大会諸準備（12月6日）諸準備（12月7日）の実施（堤・永田）
- (4) 新年会（2月1日；堤）等行事への参加

4 学連・自衛隊連盟等行事への参加

関東学生OB連合会（6月・11月）への参加（3名）

5 自衛隊連盟行事への参加

第40回全自衛隊大会（27年1月23日；市ヶ谷）に参加

6 校内活動

- (1) 少林寺拳法部顧問会議の開催（定期異動時、随時転出入者があったとき）
- (2) 政権・OB合同会議（1ヶ月に1回基準）
- (3) ホームページの作成及び運営指導（行事等の機微に応じた広報活動を指導）

平成 2 6 年度奥平会年間活動成果

期 間	行 事	場 所	備 考
1 月 8～11 日	寒 稽 古	防衛大学校	
2 月 8 日	奥平杯演武大会 ・奥平総会・納会	防衛大学校	
3 月 23～25 日	春 合 宿	防衛大学校	
4 月中	全力勧誘期間		
5 月 4 日	関東学生大会	日本武道館	団体演武 2 位
5 月 12 日	新入部員歓迎行事	ソレイユの丘	新入部員 16 名入部
5 月 24 日	早慶防合同練習	防衛大学校	早慶を含め、10 校が参加
6 月 8 日	杉本杯（乱捕大会）	法政大学	
6 月 21 日	少林寺拳法部創部 50 周年 記念式典	グランドヒル 市ヶ谷	来賓・現役・OB 220 名参加
8 月 18～21 日	夏合宿	新潟県越後湯沢	
8 月 25 ～8 月 31 日	本山合宿	香川県多度津町	3 年生主体に参加 (欠課を伴う校友会特別外出)
9 月 28 日	第 12 回関東学生新人大会	早稲田大学 戸山キャンパス	
11 月 30 日	全日本学生大会	日本武道館	団体演武：3 位
11 月 8～9 日	第 62 回開校記念祭 (演武披露)	防衛大学校	
11 月 30 日	全日本学生大会	日本武道館	
12 月 1 日	政権交代	防衛大学校	
12 月 7 日	三浦ブロック大会	保健福祉大学	

平成27年度奥平会活動計画

1 活動内容

- (1) 部活動支援
金銭的・人的支援を継続して実施するとともに、昨年度に引き続き少林寺拳法改革新体制移行に伴う指導を適切にする（各人毎の本山との連絡・入金、考試との関連）。
- (2) 一般財団の実施する講習（道院長・支部長講習）に、参加する。
- (3) 横須賀・三浦ブロック活動への参加
近隣支部との合同練習（2ヶ月に1回）に積極的に参加（本山の目）する。
- (4) 関東学生OB連合会活動参加
懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。
- (5) 校内活動
OBの部活動・練習参加に加え、OB自身の技術向上を図り、積極的に指導を実施する。

2 部の活動予定

付 紙「平成27年度年間活動計画」参照

3 活動に当たっての重点事項

- (1) 新入部員獲得に関して指導をするとともに、金銭支援を行う。（金銭支援、勧誘活動支援、HP作成等）
- (2) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。
特に当面、防大に所在するOB顧問が増加する見込みは以前ほど少ないとはいえないが（50期代の小隊指導官・研究科学生が期待できる。一方で40期代の中隊指導官はあと5年、大隊指導官は10年ほど望めない状況）ことから、部外顧問制度を充実（学生時代の主将・副将等の優技者、任官後も練習を継続している者、全自支部の役員、元監督等、平成25年度には7名に依頼、26年度は2名依頼した）して、学生の指導を有益なものにする。さらに、OB顧問以外の意欲のある教官を将来的に有段者に育てる等、顧問団の育成に着意する。
- (3) 防大勤務OBの増加を要望する（陸・海・空各幕への働きかけ：25年度：長合1佐、立林1佐、松岡1尉）
- (4) 期連絡網については、メールの活用を含め、連絡体制の効率化・迅速化を図る。
- (5) 部誌のメール・ウェブ化4年度目として引き続き業務・経費の効率化を図る。

4 部務の運営について

(1) 監督、顧問業務

本山との業務の一本化を図る目的で、高取 2 海佐を監督として配置、副監督を松岡

1 陸尉とする。

学生の技術指導等は部外顧問をはじめ、近隣からの支援をもらう。

(2) 幹事業務

ア 総括業務

立林会員

イ 庶務業務

・三浦ブロッカー松岡会員（副：永田会員）

・神奈川県連－濱田会員

・全自衛隊－米山会員

・学生 OB 連合－米山会員

ウ 会計業務

長合会員

エ 広報業務

松岡会員

(3) 会計監査

稲葉会員（24期：27年度より山形会員から交代予定）

5 その他

顧問支出への支援（平成24年度施行）について

26年度も、顧問の諸行事参加（部外行事・合宿の高速代等）に関しては、引き続き支援を実施した。但し平成10～18年度の奥平会費が枯渇するような状況（8年間、OBから1口3000円のカンパを募りました）になった場合、その運用を再検討する。

平成27年度年間奥平会（少林寺拳法部）活動計画

期間	行事	場所	備考
5月4日	第52回関東学生大会	日本武道館	団体演武6位
5月9日	新入生歓迎会	横浜海の公園	新入部員20名入部
5月16日	早稲田大学・慶應義塾 大学との合同練習 (早慶防)	防衛大学校	早稲田・慶応・東海・ 慶応理工・青山学院・ 明治・明治学院・日本 体育女子大・上智・立 教・フェリス・法政計 153名
6月27、28日	関東学生連盟新入生合 宿	国立オリンピッ ク記念青少年総 合センター	
8月1～3日	夏合宿	防衛大学校	
8月22日	第41回全自衛隊大会	千歳基地	
8月25～30日	本山合宿	香川県多度津町	
9月 (時期未定)	杉本杯	法政大学	
11月1日	第49回全日本学生大会	日本武道館	
11月14、15日	第64回開校記念祭 (披露演武)	防衛大学校	
11月下旬 (時期未定)	政権交代	防衛大学校	
1月 (時期未定)	寒稽古	防衛大学校	
2月6日	奥平杯・OB総会・納会	防衛大学校	
3月下旬	春合宿	防衛大学校	

平成27年度奥平会予算計画

1 収入について

40期半ばの部員減少期、厳しいOB会費予算の状況を受けて12年度以来、一口30000円の特別会費を設定、お願いにこたえ、OB・OGの皆様の温かいご援助を受けてまいりました。これにより18年度には約2ヵ年分の活動費（約140万円）を上回る額を確保することができるようになり、当該年度をもって、特別会費の徴収を見合わせた予算となったことは奥平会誌33号（平成18年度版）でも申し述べたとおりです。

当面の間、26年度以降も卒業時の一時金による予算によりまかなうことになっております。因みに現在の部員数は、3学年14名、2学年18名、1学年21名となっております。25年度以降も終身OB会費による運営が可能です。今後も奥平会の本来の形式であった終身OB会費（卒業時の学生手当の1/2）による運営を追求して行きます。

2 支出について

26年度は、防大少林寺拳法部50周年記念行事、少林寺拳法一般財団化・改革事業4年目完了期を迎えるなど、大きな事業が予定されておりましたが、27年度は特に大きな行事は予定されておらず、例年並みの支出を見込んでおります。

3 27年度予算計画について

収 入		支 出	
前年度繰越金	¥1,866,635	各種大会支援	¥140,000
小計	¥1,866,635	合宿支援	¥15,000
OB会費	¥810,000	学生活動支援	¥60,000
		技術向上支援	¥200,000
利息	¥0	奥平会運営費	¥200,000
その他	¥0	OB顧問団必要経費	¥100,000
小計	¥0		
総計	¥2,676,635	総計	¥715,000
残高（収入－支出）			¥1,961,635

4 来年度以降の見通し

奥平会の運営経費は年間約80万円を必要としております。既にご承知の通り、収入は当該年度の卒業生の終身OB会費（5.4万円/人）によって賄われております。当面は終身OB会費による運営が可能です。

連絡事項

1 状況分析（奥平会を取り巻く組織資源について（「人・物・金」）

現在奥平会員の最初の退職（10期生）が開始されてから約17年、今年度は26期（1佐）が該当期となっています。

20期代は奥平会会員数のピークを迎えた期であり、10年以内にOB数は、減少の一途をたどることとなります。一方で、50期代は10名規模に回復したとはいえ、40期代は4名で政権を担った期もあり、減少の度はさらに増すことが予想されます。

このような状況を鑑み、これからの奥平会総会は、組織資源である「ヒト・モノ・カネ」に関して引き続き検討を続けていかなければなりません。

以上のような全般状況の中であるので、平成27年度は50・40期代の小隊指導官、中隊指導官要員、30期末期～40期代の大隊指導官要員が補充の対象となっているが、OB顧問の増加はあまり期待できそうにありません。つまり、今後少人数のOB顧問で防大地区は奥平会事務、及び部外との調整、学生の掌握等に努めなければならない状況にあります。

現在、部員が15名前後の人員を確保できる兆しがあることから、「ヒト・モノ・カネ」のうち、奥平会予算については平成18年度から小康状態に入りました。今後も現役学生と協力して新入部員勧誘に努めなければなりません。

2 自衛隊全自支部について（紹介）

自衛隊員の活動を容易にし、自衛隊の中での少林寺拳法の活動を活発化する目的で、全自衛隊連盟の一支部として、全自衛隊支部が設立されております。

設立の趣旨としては、各拳士が全国どこの自衛隊勤務地においても少林寺拳法の練習ができるように設立されたものであり、自衛隊の少林寺拳法の活発化を図るものです。

現在、米山多佳志元1等陸佐（防大27期：元監督）が3月に退官を迎えたため、山口直人2等空佐（防大32期）が支部長・事務局事務担当者として、この業務に携わっております。

防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則

(名称組織)

第1条 本会は、防衛大学校少林寺拳法部奥平会（以下「奥平会」という。）と称し、防衛大学校少林寺拳法部（以下「少林寺拳法部」という。）に卒業時所属していた者及び一時所属していた卒業生で入会を希望する者をもって組織する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図ること、少林寺拳法部の発展向上に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員相互の融和団結の促進
 - ア 総会の開催
 - イ 部隊等における支部の設立と活動に対する支援
 - ウ 会員の慶弔に関すること
 - (ア) 結婚 …… 祝電
 - (イ) 死亡 …… 花輪、弔電
- (3) 会員の修業の便を図ること
- (4) 少林寺拳法部への支援
 - ア 合宿
 - イ 関東、全日本、その他の大会
 - ウ OB杯大会
- (5) 学生OB連合会及び他大学OB会との連携・交流
- (6) その他、本会の目的を達成するため会長が必要と認める事項

(経費)

第4条 本会の経費は、会員より徴収する会費及び寄付等の支援金によるものとする。

(会費)

第5条 20期以前の会員は一律5000円、21期以降の会員は卒業時における学生手当の2分の1（1000円未満切捨て）を終身会費として納入するものとする。なお、一旦納入した会費は返還しない。

(特別会費)

第6条 前条に定めるほか、特別の出費を要するときには、総会の承認を得て会員から特別会費を徴収する。

(本部)

第7条 本会の本部は、防衛大学校（少林寺拳法部）内に置く。

(名誉会員)

第8条 会長は、次に掲げる者を総会に諮り名誉会員にすることができる。

- (1) 防衛大学校長
- (2) 少林寺拳法部の部長、師範、顧問及びその経験者
- (3) その他、少林寺拳法部の発展に功績のあった者

(役員)

第9条 本会の役員は、会員のうちから選出する。役員任期は1年とし、再任を妨げない。

2 本会に次の役員を置く。

- | | |
|------------|--------|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 2名 |
| (3) 幹事 | 本校在職会員 |
| (4) 会計監査委員 | 1名 |

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、名誉会員との連絡調整にあたる。

2 会長は、会員の中から副会長、幹事、会計監査委員を任命する。

3 会長は、5年任期とし、次期会長の任期に当たった当該自衛官会員の先任者等の推薦によって選考するものとし、当該期会長任期満了までに総会の承認を得るものとする。

4 会長は、陸海空自衛官会員の持ち回りを原則とするが、当該要員に適当な候補者がいない場合は他の要員から選考する。但し、同じ要員から連続して選考しないものとする。

(副会長)

第11条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき之を代行する。

2 会長は、防大及び市ヶ谷駐屯地等の会員の中で、それぞれ適任と思われる者から副会長を任命する。また、必要によりこれを免ずることができる。

3 状況により、会長は副会長を置かないことができる。

(幹事)

第12条 幹事は、会長、副会長を補佐し、会務を処理する。

2 会長は、防大に勤務する会員を総務幹事に任命する。

(会計監査委員)

第13条 会計監査委員は、年度末及び臨時に会の会計を監査し、会長及び会員に報告する。

2 会計監査委員は、防大の幹事以外の会員の中から会長が任命する。

(運営)

第14条 本会は、総会の決議に基づいて運営する。但し、急を要する事項、若しくは軽易な事項は、会長が役員会に諮って決することができる。

(総会)

第15条 総会は、原則として年1回会長が召集する。但し、必要と認めるときは、臨時に召集することができる。

2 会長は、総会の召集にあたり、副会長に委任することができる。

3 総会は、会員15名をもって成立する。但し(5名)をこえない範囲で委任状による手続きによることを妨げない(平成20年度総会議決事項)。

4 総会の議長は、会長がこれに充たるものとする。

5 総会の議事は、出席した会員のうち過半数以上の賛同により、成立するものとする。

(会務)

第16条 本会の会務を円満に処理するため、会長は幹事の中から書記4名を選任する。

2 書記は、総括、庶務、会計及び広報に分掌して処理する。

3 総括担当書記は、会務運営を企画し、会務全般を総括する。

(1) 会長等と密接に連絡を取り、会長の意向を会務全般に反映する。

(2) 年度の活動成果報告を作成して、総会に報告する。

(3) 次年度の活動計画を作成して、総会の承認を得る。

(4) 庶務、会計及び広報担当書記の会務を統制・調整し、会務の円滑な運営を図る。

(5) 状況により、他の担当書記の会務を兼務することができる。

4 庶務担当書記は、主に庶務事項に関して会務を分掌する。

(1) 学生OB連合会、他大学OB会等のOB会組織並びに(財)少林寺拳法連盟、神奈川県少林寺拳法連盟、全自衛隊少林寺拳法連盟等の連盟組織との連携を図るとともに、必要な処置を行う。

(2) 役員名簿を作成する。

5 会計担当書記は、会費を管理し、主に会計事項に関して会務を分掌する。

(1) 会費を徴収する。

(2) 会費納入名簿を作成する。

(3) 会費未納者に対し、会費の納入を促す。

(4) 毎会計年度終了後、特別会費を徴収した場合はその都度、決算報告を作成し総会の承認を得る。

6 広報担当書記は、主に広報事項に関して会務を分掌する。

- (1) 少林寺拳法部と連携して、試合日程、合宿等を会員に知らせ、会員の応援を促す等、会員に対する適宜の情報提供を図る。
- (2) 少林寺拳法部と連携して、年1回会報を作成し、各担当書記が作成する会の活動計画・成果、決算報告、総会議事録、名簿及び部の状況等を会員に知らせる。
- (3) 会員名簿を作成する。

(会計)

第17条 本会の会計年度は、1月1日に始まり12月末日をもって終わる。

2 本会所管の会費は、確実なる金融機関（防衛庁共済組合を含む）へ預け入れるものとする。

(会費の使途)

第18条 本会の会費は、次のことにより使途するものとする。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員の慶弔に関すること
- (3) 少林寺拳法部への支援
- (4) 会員等によるOB会活動等への参加支援
- (5) 会員の大会出場（全国大会レベル）への参加支援
- (6) 会長が、副会長及び幹事等の役員に諮り、奥平会、少林寺拳法部の円滑なる運営上必要と認めた事項

(期連絡網)

第19条 本会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理するため、各期に1名の期連絡担当者を置き、会員及び本部との間に期連絡網を整備する。

- 2 期連絡担当者の選出は、各期毎確実に連絡の取れる会員（電子メールアドレス所持者等）を選出するものとし、交代の際には速やかに本部（広報担当書記）に連絡するものとする。
- 3 会員は、住所・所属等に変更があった場合、毎年11月1日までに同期生の期連絡担当者を通じて、変更事項を本部（広報担当書記）に連絡するものとする。
- 4 その他、会員の慶弔に関する事項については、期連絡担当者或いは各会員が直接本部（広報担当書記）に連絡するものとする。

(退会)

第20条 会員で退会しようとする者は、会長に申し出るものとする。

(規則の改正)

第21条 本会の規則は、総会によって変更することができる。

2 前項の場合、出席会員の3分の2以上の賛同を得なければならない。

附則：この会則は、平成21年2月14日から施行する。

奥平会員名簿

